

11月ニュース

今月は化学物質管理者のリスクアセスメントについて掲載致します。
アセチレンガスを用いて作業する事業者はと取扱い事業者に該当致します。

リスクアセスメント

CREATE-SIMPLE法にて有害性・危険性の評価付け、結果がIII、IVの高リスク判定には低減措置を検討する。

現時点にて厚生労働省が推奨しているCREATE-SIMPLE法を用い、集めたデータを基に**リスク(有害性・危険性)**を**アセスメント(評価付け)**します。

CREATE-SIMPLEは**エクセル**でのマクロを用いた簡易的な評価手法で、実際の環境測定などを行わなくても、推定値を基にリスク評価を行います。

物質のCAS番号や重量%を元に、作業時間や換気状況をプルダウンメニューから選択入力してゆき、「リスク判定」ボタンで評価結果を得られます。

慣れないうちは少し戸惑いを覚えるかもしれませんが、判ってしまえば、そんなに難しいモノでもない筈です。

難しく考えずに、**とにかくポチポチ触って**いれば大丈夫です。

それでも判らなかつたり、難しく思えるのなら、一人で考え込まずに誰かに聞いてみましょう。それが結局一番早かつたりします。

実測・対策

リスクアセスメント結果に基づき個人ばく露測定や、作業工程、物質、環境、時間などを見直し対策を行う。

- A 作業環境測定
 - ・専門家（作業環境測定士等）の関与が望ましく、測定コストが掛かる。
 - 測定可能な物質は100種程度
- B 簡易測定（検知管）
 - ・特別な測定技術や校正が不要、その場ですぐ判る。
 - 測定可能な物質は220種程度
- C 簡易測定（リアルタイムモニター）
 - ・測定機器の導入コストが掛かる、点検・校正が必要。
- D 個人ばく露測定
 - ・ばく露測定としては最終的な方法、専門家（作業環境測定士等）の関与が望ましくコストが掛かる。測定可能な物質は600種程度



実測・対策

リスクアセスメント結果に基づき個人ばく露測定や、作業工程、物質、環境、時間などを見直し対策を行う。

- A **本質安全対策**
 - ・その物質の使用を止める、または同等の代替品に替える
 - ・反応プロセス等の変更など、技術的に作業内容を変えてしまう。
- B **工学的対策**
 - ・局所排気装置の導入や防爆機器への入替、物質・装置の密閉化
 - ・安全装置の二重化など、機器や構造によってリスクの低減を図る。
- C **管理的対策**
 - ・作業手順やマニュアルの変更・整備、教育訓練、管理方法の見直し。
- D **保護具の着用**
 - ・保護メガネ、保護手袋、安全靴など個人用保護具の使用する。

最後の手段

記録・周知

リスクアセスメント結果の記録・更新、作業従事者への**教育、意見聴取、記録・保存**。

リスクアセスメントの結果と、その対策について従事者へ**周知し教育**します。

不安全行動の原因	行うべき教育	教育内容
知らなかった	知識教育 を行う	取り扱う装置・設備の構造、機能など 化学物質の危険有害性 作業に必要な法規、社内基準など
出来なかった	技能教育 (訓練)を行う	作業のやり方、設備の操作の仕方 緊急時対応に係わる事柄の定期的な訓練 技能の更なる向上に繋がる事柄
やらなかった	態度教育 を行う	化学物質を取り扱うことによる利益と不利益 感情、本能に訴えるメッセージの伝達 危険性の場合は、五感での体感 * 適正配置のことも頭に置いておく

どんな危険性・有害性が在って、どうやって防ぐのかを伝え、教えて、その記録を作成し保管しておきます。

来月もリスクアセスメントのCREATE-SIMPLEなどについて掲載致します。

気仙沼酸素株式会社